

平成27年度 地域貢献活動支援報告書

所 属 人文学部

氏 名 大河内 朋子

活動テーマ	留学生による「一日高校生」活動
実施期間	平成27年7月8日 ～ 平成28年3月5日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>「一日高校生」とは、留学生が特定のクラスに一日だけ「編入学」し、始業時から終業時までそのクラスの高校生と同じ授業を受け、放課後にはクラブ活動にも参加するという形での交流活動のことである。</p> <p>今年度は三重県立上野高校の協力を得て、7月8日(水)に1年生6クラスで、12月16日(水)に2年生7クラスで実施した。教室規模の制約から、各クラスには1～2名の留学生が「編入」することになった。</p> <p>両日共に授業は午前中に終わり、午後はホームルームなどの時間であった。留学生が受講した授業科目は、体育、保健、英語、世界史、古典、現代文、地理、化学、数学、情報などであり、情報や保健など留学生の出身国にはない科目も含まれていた。午後のホームルームの時間は留学生との交流活動の時間に充てられていて、7月8日の1年生クラスでは、留学生による出身国の紹介や生徒とのゲームなど、クラスごとにさまざまな工夫をこらして交流がなされた。12月16日の2年生クラスでは、留学生と高校生と一緒に校外に出て、学校周辺の史跡(芭蕉翁生家、上野城、崇廣堂、だんじり会館など)を見学しながら、交流を深めた。</p> <p>放課後には、留学生の希望に従って、書道部、ESS、サッカー部、バスケットボール部などに分かれて、2時間近く部活動を行った。</p> <p>終了後の留学生向けアンケート結果によると、「来て良かった」、「(高校生の)熱さ、優しさ、純潔さに感動した」、「アニメや映画などでしか見られなかった日本の高校生活を今回実際に体験できたのは、ちょっと感動した」、「高校教育の在り方に対する理解力も深めることができた」など肯定的な意見がほとんどであった。上野高校側も、来年度も同様の事業の継続実施を希望している。</p> <p>なお、「一日高校生」事業とは多少内容が異なるが、高校向け地域貢献活動の一環として、3月5日(土)に四日市高校で「英語による交流」活動を実施した。参加した留学生は、四日市高校の希望により、欧米出身で英語の話せる学生11名であった。</p> <p>当日は、10グループ(各グループ当たりの高校生数5～6名)に分かれてひなまつりのちらし寿司を作り、まずは留学生と高校生の心理的な「垣根」を低くするように試みた。その後、グループ別にワークショップ形式で、文化比較(「食事」「歴史」「難民」「伝統」など)を行い、話し合いの成果を英語でポスター発表した。</p> <p>終了後の高校生向けアンケート結果によると、参加した高校生の9割以上が5段階評価の最高点「とても良かった」と評価し、ほぼ全員が「また留学生との交流に参加してみたい」と答えている。四日市高校からも継続的な実施を求められている。</p>

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

本事業実施後の参加者アンケート結果および三重県立上野高校・四日市高校の要望から明らかなように、そもそも高校生が留学生と交流する機会は少なく（例えば、「なかなか機会がないので四日市高校で開いてもらえてよかった」という高校生のアンケート記述がある）、留学生交流による教育的効果は大きい。しかしながら、高校教員もそして高校生自身も、一日だけや一回限りの交流では効果が限定的であることを意識していて、継続的な交流活動の実施を求めている（たとえば、「初めは緊張したけどだんだんと話せるようになって楽しく過ごせた」、「楽しかったが、積極的に話せなかったのが残念」などのアンケート記述が参考になる）。交流するための言語が日本語であれ英語であれ、出合いを繰り返す間に、心理的な垣根も言語的な障害も少しずつ減少していくからである。

なお、高校との留学生交流は平成 26 年度から伊賀地域で試行しており、今年度は実施回数も実施時間も増やし、また実施地域も四日市へと拡大させた。

(3) 共同実施者との連携状況

県立上野高校とは、教頭とのメールでの連絡だけではなく、6月5日（7月実施分）および11月18日（12月実施分）に上野高校にて打ち合わせを行った。

県立四日市高校とも、メール連絡だけではなく11月25日に校長・教頭と四日市高校において面談での打ち合わせを行った。

両校との連携状況は良好であり、特段の問題は生じなかった。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

留学生アンケートの記述回答にもあるとおり、留学生にとっては、日本の高校生活や高校教育の一端を実体験する場になり、日本社会を理解するための得がたい機会となった。また、上野高校での「一日高校生」交流では、普段の日本語学習の成果を試す場ともなり、言語能力の鍛錬という面でも有意義であった。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

- A. 「一日高校生」7月8日（水）、三重県立上野高校1年生6クラス、参加留学生6名（ドイツ人2名、中国人2名、韓国人1名、ベトナム人1名）
- B. 「一日高校生」12月16日（水）、三重県立上野高校2年生7クラス、参加留学生9名（アメリカ1名、フランス2名、ドイツ3名、中国1名、台湾1名、ベトナム1名）
- C. 「英語で交流」3月5日（土）、三重県立四日市高校1～2年生52名、参加留学生11名（ドイツ5名、フランス3名、ルーマニア1名、スウェーデン1名、イギリス1名）

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

上野高校が来年度計画に人文学部留学生との交流を取り入れ、実施経費の申請を行ったことは、今年度の三重大学地域貢献活動に対する高校

側の評価の高さを如実に示している。

上野高校（7月 英語の時間に先生から話しかけられて）



上野高校（7月 ホームルームの時間に母国ベトナムを紹介する）



上野高校（12月 放課後はバスケットボール部と一緒に部活動）



四日市高校（3月 オープニングの自己紹介）

